

消防防災博物館

当博物館はインターネット上の仮想博物館です。建物は存在しません。

サイト内検索：

検索

見て学ぶ

調べる

東日本大震災

防災展示場

こどものひろば

イベント・掲示板

▶ 日本の火山・世界の火山

▶ 防災訓練映像紹介

▶ 防災まちづくり

▶ 消防防災に関する情報通信

▶ 防災センター

▶ 消防防災GIS

▶ 基礎知識

▶ 報告書・記録集

▶ 消防専門知識の提供

▶ 防災専門知識の提供

▶ 教材資料コーナー

▶ 法令を探す

▶ 火災・事故防止に資する防災情報データベース

▶ フリーワード検索

▶ 日本地図から検索

▶ 絞り込み検索

▶ 年度別優良事例リスト

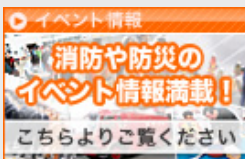


防災展示場

消防防災関連の
アイテムを一堂に展示中！
▶ すぐにアクセス

消防防災GIS

活用情報やQ & A等を掲載してい
ます。地図データやバージョン
アップ版のダウン
ロードもできます。



関連サイト

- » [総務省消防庁](#)
- » [防災・危機管理e-カレッジ](#)
- » [消防防災科学センター](#)

お役立ちリンク

- » [法令を探す](#)

地域ぐるみでお年寄りを守る一方策



上浮穴郡幼少年婦人防火委員会（愛媛県）

事例の概要

愛媛県高齢者福祉課が調査した市町村別の65歳以上の人口状況を見ると、上浮穴郡内の65歳以上の人口比率は柳谷村の46.40%を筆頭に、5町村はいずれも30%を超え、5町村の平均は37.61%となっている。比率の県内順位も、柳谷村の第2位をはじめ、面河村、美川村の3村が10位以内にランクインするなど、県下に先駆けた超高齢社会が極めて著しく進展している（数値は平成13年4月1日現在）。

特筆すべき管内の地理的条件として、ほとんどの集落が主要幹線道路から数百メートルないし数キロメートル奥まった辺鄙な山間部に点在しており、大規模な災害が発生した場合には集落の孤立が憂慮され、防災機関の対応が難しい。

また、地域防災の要である消防団員は生業が農林業であったり、サラリーマンが多くを占めていることから昼間不在がちであり、貴重な防災戦力として集落内の婦人や児童生徒に寄せる期待は極めて大きなものがある。

そこで、郡内の少年消防クラブや婦人防火クラブでは、創意工夫を凝らした活動を通して地域内の一人暮らしや身体の不自由なお年寄りに安心を与えるとともに、有事の際には実戦部隊として適切に対応できるよう訓練に努めている。

〈 内容 〉

1. 少年消防クラブ員による「防火のおたより活動」

火気を使用する機会が多くなる時期や何かと慌ただしい年末年始の際、校区内の一人暮らしのお年寄りに防火や長寿の願いを込めたおたよりをクラブ員が直接訪問して贈る活動を繰り返し行っている。

おたよりの他、学校の茶畑で自分たちが摘んだ茶葉、つくたての餅、防火標語入りタオル、手づくりの注連縄（しめなわ）飾りや版画ポスターといった各クラブが創意工夫を凝らした贈り物も添えられている。本活動はお年寄りから毎年心待ちにされており、後日お礼の手紙が届くなど、お年寄りから大変感謝されている。

また、中には道路から数百メートル離れた一軒家という世帯もあり、クラブ員は直接訪問することでお年寄りの日頃の苦勞を身を持って知るようになった。その結果、普段から自主的に近所のお年寄りを気に掛けるようになり、このような交流を図る中でお年寄りに強い安心感を抱いていただいている。

2. 婦人防火クラブ員による安否確認活動

平成13年3月24日に発生した安芸灘を震源とする芸予地震では、管内の久万町や松山市などで震度5強を記録し、県内で死者が出るなど大きな爪痕を残した。

本地震では、突然の強い揺れの最中、多くの人が思うように動けなかったり、たとえ動けたとしても自分の身を守ることで精一杯であったろうと推測できる。その中で、下直瀬婦人防火クラブ（久万町）では、地震直後から、自らの危険も顧みず、地域内の一人暮らしや身体の不自由なお年寄りを気遣い、一軒一軒安否を確認して巡る活動を展開した。

今回の芸予地震のような災害が発生した場合に抱く不安は計り知れないものがあるが、本活動は素早い立ち上がりであったため、そうした不安をすぐさま和らげ、訪問を受けたお年寄りから心強いものを感じたという感謝の声が続々と寄せられた。

こうした自主的で熱心な活動は、民法テレビ局の自主防災について考える報道特別番組に取り上げられ、近畿、中四国地方に放映、広く紹介された（平成13年7月3日）。

3. わが町・村の救命士

管内における救急車要請から現場に到着するまでの平均時間は、全国平均（6分）をはるかに上回る11分を要している。また、傷病程度をみると、全国的には「軽症」が過半数を占めているものの、管内では脳疾患や心疾患といった「重症」が最も多く、重症緊急度が高くなっている。さらに、65歳以上の傷病者搬送が全体の過半数を占めていることなどから、救命率、社会復帰率を向上させるにはバイスタンダーの適切な応急手当が必要不可欠になっている。

このことから、当消防本部では平成5年11月に「応急手当の普及啓発活動の推進に関する規程」を制定し、同規程に基づき「あなたです！勇気を出して救うのは」をキャッチフレーズに、救命講習を積極的に推進している。

管内の中学校（少年消防クラブ）や婦人防火クラブでは、普通救命講習に熱心に取り組んでいる。中学校では新入生の新規受講にあわせて、すでに修了している上級生に対して再講習を実施しており、知識・技術の維持に努めている。また、婦人防火クラブでは普通救命講習修了者が350余名を数え、

中には上級救命講習を受講し、さらなるステップアップに努めるクラブもある。



防火のおたより活動



テレビ取材



防火のおたより活動



救命講習



救命講習

実施期間

1. 防火のお便り活動：平成2年～
2. 安否確認：平成13年3月24日
3. わが町・村の救命士：平成5年～

団体の概要

幼年消防クラブ（7クラブ）：305名
少年消防クラブ（13クラブ）：461名
婦人防火クラブ（17クラブ）：1, 128名

[▲ページトップへ](#)